

1 単元名 詩を楽しもう

～「わたしと小鳥とすずと」「大漁」～

2 目標

- 詩の情景や作者の思いが伝わるように音読し、詩を読む楽しさを味わうことができる。
(関心・意欲・態度)
- 言葉のリズムを楽しんだり、詩の情景や作者の思いを想像したりしながら、表現を工夫して読むことができる。
(読むこと)
- 読み取った詩の情景や作者の思いや音読の工夫について、友達と話し合うことができる。
(話すこと・聞くこと)

3 指導計画 (全4時間)

第一次 二編の詩を、視写したり読んだりして、感想を出し合い音読を中心とした学習計画を立てる。

第二次 読み取ったことをもとに音読を工夫する。

第1時 「大漁」を読み、音読を工夫する。

第2時 「わたしと小鳥とすずと」を読み、音読を工夫する。(本時)

第三次 音読会をし、読みの工夫について話し合う。

4 指導上の立場

(1) 単元について

本単元で取り上げる「わたしと小鳥とすずと」「大漁」の2つの詩は金子みすずの代表的な詩である。「わたしと小鳥とすずと」では、わたしと小鳥とすずを比較しながら、はかないもの、か弱く小さいものへの思い、違うことや価値を認めることの大切さを表現している。また「大漁」では、大羽鯛の大漁を喜ぶ一方で、人間に捕られた大羽鯛に目を向け、小さい生き物に対する優しさや温かさ、命の尊さを表現している。どちらも言葉から詩の内容をイメージをしやすく、くり返しや対比を意識させて音読することで、詩のおもしろさを味わうことができると考える。

3年生の児童は2年生で「おおきなあれ」「いるか」などを詩のもつリズム感を楽しみながら学習してきている。4年生は昨年度4年生の教材「春のうた」などで情景を想像したりリズムを楽しんで音読したりする学習をしてきている。しかし、3・4年ともじっくり詩の内容を読み取り、表現する力は十分身に付いているとは言えない。

声に出して繰り返し音読していく中で、詩のもつイメージの美しさ、リズムの楽しさ、おもしろさを味わわせるとともに、詩の内容を読み取り、それをもとに友達と意見を交換しながら、音読の工夫をさせたい。3次に音読発表会を設定することで、意欲をもってより高い音読をめざして取り組むことができると考えた。意見交換をしたり、友達の音読を聞いたりすることで、友達と受け取り方に違いがあることに気付いたり、さらに自分の考えを深めたりすることができるようにしていきたい。

(2) 児童の実態

削除しています。

(3) 指導の工夫について（研究テーマと関連して）

研究主題「伝え合い、高め合う児童の育成」に迫るために、次の2つの視点から支援を試みたい。

①自分の考えをもつための支援

- ・繰り返し音読させ、読んだ感想を自由に書かせ、一人ひとりの感じ方を大事にする。
- ・詩の情景や事柄をイメージ化させるため、動作化させたり絵に描かせたりする。
- ・自分の考えをもつことができるように十分時間を取ったり、書きやすいワークシートを工夫したりする。
- ・自分の考えをもつため、物語文や説明文では書き込みに取り組んでいる。

②自分の考えを発表し、全体で話し合うための支援

- ・自信をもたせるため、二人組で意見交換したり、それを二人で発表させたりしている。
- ・みんなの前で大きな声を出して自分の考えを言うことに慣れるために、朝の会のスピーチでは、質問したり、感想を言ったりする場を設定し、発表の場を増やすようにしている。
- ・国語の授業はもちろん、学習の場で、自分の考えを発表したり、話し合ったりする時間を設定するようにしている。

5 本時案 (第二次 第2時)

目標	詩のもつリズム感や言葉の響き合いを感じながら、読み取ったことが相手に伝わるように音読の仕方を工夫することができる。	
学習活動	教師の指導と支援	視点・評価
1 本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 詩を音読することで詩のリズムや構成・対比などを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">わたしの気持ちが伝わるように音読の工夫をしよう。</div>	
2 連ごとの内容を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんなものがイメージできるか問い、情景やわたしの気持ちを考えさせる。 ○ 自分の考えをもちやすくするため、ワークシートに書き込ませるようにする。 ○ 詩の内容やわたしの気持ちを全体場で押さえるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・1連はわたしと小鳥を比べて、 わたしは空をとべないが走ることができる。 小鳥はとべるが走れない。 わたしも空をとびたいな。 ・2連はわたしとすずを比べて、 わたしは音は出せないが、うたを知っている。 すずは音が出るがうたを知らない。 わたしもきれいな音を出したいな。 ○ 「みんな」とはわたしと小鳥とすずの3つで「それぞれが違うからいい」ことやそれぞれの良さを押さえる。 ○ 「みんなちがって みんないい」という言葉に込められたわたしの思いについて考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなちがうからいい。 ・だれにも得意なこと、苦手なことがある。 等 ○ さらに、題の最後の「と」に注目させることにより、「みんな」とは地球上にある全てのものをさすことに気付かせるようにする。 ○ 話し合っただけのことや感想を板書にまとめ音読の工夫につながるようにする。 	<p>① 気付いたこと・読み取ったことを書くことができたか。(読む/ワークシート)</p>
3 音読の仕方について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ わたしの気持ちを考えて、音読の工夫を書き込ませる。 (・・・という気持ちだから・・・) ○ 自分の考えがもちにくい児童には、1連2連についての板書を手がかりにするよう助言する。 ○ ノートに音読の工夫が書き込みやすいように、音読のヒントを提示する。 ○ 実際に声に出して確かめるように助言する。 ○ 隣の児童と意見を交換し合い、友達との話し合いで付け加えたり工夫や読み方を変えたりしたところは、赤鉛筆で書き込むよう指示する。 (・・・という気持ちだから・・・音読する。) ○ 意見の交換が進んでいる児童や意見交換して自分の考えが変化した児童を称揚する。 ○ 隣同士で意見交換ができたところは、それをもとに音読の工夫をするように助言する。 ○ 動作をつけながら音読の練習をしている児童を称揚する。 ○ 学習を振り返り、色々な表現の仕方があることや、一人一人感じ方が違うことに気付かせるようにする。 	<p>② 意見交換することができたか。(話す聞く/発言)</p>
4 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二編の詩から好きなほうを選んで練習し、音読発表会をすることを知らせ、次時への意欲につなげる。 	

6 単元構想

次	時	主な学習活動	児童の意識と思考の流れ	指導事項・留意点
一	1	○ 二編の詩を読み、視写したり、音読したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 繰り返し読んでいるとリズムを感じるな。 ○ 「大漁」は2連からなっているな。 ○ 「わたしと小鳥とすずと」は3連からなっているな。 ○ …の方が好きだな。 ○ どんなことを言いたいのかな。 ○ 音読するのはおもしろいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 繰り返し音読させる。 ○ 1行空きで視写させる。 ○ 感想を書かせる。
二	1	○ 「大漁」を読み、音読の工夫をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1連と2連は対比していたな。 ○ 漁師さんが喜んでいる詩だな。 ○ 魚たちは悲しんでいるな。 ○ 命って尊いものだな。 ○ 漁師と魚たちでは、思いが違うな。 ○ 漁師や魚の気持ちが伝わるように音読するにはどう工夫したらいいかな ○ 友だちはどんな音読をするのかな。 ○ 友達に音読を聞いてもらいたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートに読み取ったことを書き、情景を想像しやすくする。 ○ 内容をしっかり話し合うことで、対比のおもしろさにも気付かせる。 ○ 2人組になり、意見交換をしながら音読の工夫をさせる。
	2	○ 「わたしと小鳥とすずと」を読み、音読の工夫をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3連からできていたな。 ○ 1連と2連が対比していたな。 ○ みんなちがっていいんだ。 ○ みんなちがうからいいんだ。 ○ 音読の工夫を友達に聞いてほしいな。 ○ 言葉に合わせて、体を動かしながら読むと楽しいな。 ○ わたしの気持ちが伝わるように音読するにはどう工夫したらいいかな。 ○ みんなの前で音読したいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートに読み取ったことを書き、情景を想像しやすくする。 ○ わたしの気持ちを読み取り、しっかりと話し合わせる。 ○ 2人組になり、意見交換をしながら音読の工夫をさせる。
三	1	○ 音読会をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習して上手に音読をするぞ。 ○ 友だちの音読はすてきだな。 ○ みんな音読の工夫をしているな。 ○ いろんな音読の仕方があって楽しいな。 ○ 金子みすずのほかの詩も読んでみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫が伝わるように、音読の練習をさせる。 ○ 音読カードに相互評価を記録しながら聞くようにする。 ○ ビデオで録画し、振り返るようにする。